

医師の意見書

主治医の皆さまへ

保育園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで子どもたちが一日快適に生活できるよう、下記の感染症について意見書の作成をお願いいたします。

感染力のある期間に配慮し、子どもの健康回復状態が集団での保育園生活が可能な状態となつてからの登園であるようご配慮ください。

(保護者記入欄)

保育園長殿

児童名

病名 (いずれかに☑)

| | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 麻疹 (はしか) | <input type="checkbox"/> 溶連菌感染症 |
| <input type="checkbox"/> インフルエンザ | <input type="checkbox"/> マイコプラズマ肺炎 |
| <input type="checkbox"/> 風疹 (三日ばしか) | <input type="checkbox"/> 手足口病 |
| <input type="checkbox"/> 水痘 (水ぼうそう) | <input type="checkbox"/> 伝染性紅斑 (リンゴ病) |
| <input type="checkbox"/> 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ) | <input type="checkbox"/> ウイルス性胃腸炎 (ノロ、ロタ、アデノウイルス等) |
| <input type="checkbox"/> 結核 | <input type="checkbox"/> ヘルパンギーナ |
| <input type="checkbox"/> 咽頭結膜熱 (プール熱) | <input type="checkbox"/> RSウイルス感染症 |
| <input type="checkbox"/> 流行性角結膜炎 (はやり目) | <input type="checkbox"/> 帯状疱疹 |
| <input type="checkbox"/> 百日咳 | <input type="checkbox"/> 突発性発しん |
| <input type="checkbox"/> 腸管出血性大腸菌感染症 (O157、O26、O111 等) | <input type="checkbox"/> その他 () |

(医師記入欄)

すでに症状も回復し、裏面の「登園のめやす」に基づき集団生活に支障がない状態になったので登園可能と判断します。

平成 年 月 日

医療機関

医師名

印又はサイン

| 症名 | 感染しやすい期間 | 登園のめやす |
|---------------------------------|--|--|
| 麻疹(はしか) | 発症1日前から発しん出現後の4日後まで | 解熱後3日を経過してから |
| インフルエンザ | 症状が有る期間(発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い) | <u>発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後3日を経過するまで</u> |
| 風しん(三日ばしか) | 発しん出現の前7日から後7日間くらい | 発しんが消失してから |
| 水痘(水ぼうそう) | 発しん出現1～2日前からか痂皮形成まで | すべての発しんが痂皮化してから |
| 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ) | 発症3日前から耳下腺腫脹後4日 | <u>耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで</u> |
| 結核 | | 感染のおそれがなくなってから |
| 咽頭結膜熱(プール熱) | 発熱、充血等症状が出現した数日間 | 主な症状が消え2日経過してから |
| 流行性角結膜炎(はやり目) | 充血、目やに等症状が出現した数日間 | 感染力が非常に強いため結膜炎の症状が消失してから |
| 百日咳 | 抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで | 特有の咳が消失し、全身状態が良好であること(抗菌薬を決められた期間服用する。7日間服用後は医師の指示に従う) |
| 腸管出血性大腸菌感染症 (O157、O26、O111等) | | 症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの |
| 溶連菌感染症 | 適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間 | 抗菌薬内服後24～48時間経過していること |
| マイコプラズマ肺炎 | 適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間 | 発熱や激しい咳が治まっていること |
| 手足口病 | 手足や口腔内に水疱・潰瘍 ^{かいよう} が発症した数日間 | 発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること |
| 伝染性紅斑(リンゴ病) | 発しん出現前の1週間 | 全身状態が良いこと |
| ウイルス性胃腸炎 (ノロ、ロタ、アデノウイルス等) | 症状のある間と、症状消失後1週間(量は減少していくが数週間ウイルスを排出しているため注意が必要) | 嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること |
| ヘルパンギーナ | 急性期の数日間(便の中に1カ月程度ウイルスを排出しているため注意が必要) | 発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること |
| RSウイルス感染症 | 呼吸器症状のある間 | 呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと |
| 帯状疱疹 | 水疱を形成している間 | すべての発しんが痂皮化 ^{かひか} (かさぶた)してから |
| 突発性発しん | | 解熱し機嫌が良く全身状態がよいこと |